

# チャ新品種 'みえ緑萌1号' の育成

池田敏久・大谷一哉\*・橋 尚明\*\*・吉田元丈\*\*\*

茶業センター

## 要 旨

お茶の嗜好の多様化と早, 中, 晩性品種の組合せ栽培用とし, 摘採期がやぶきたより5日程度遅いみえ緑萌1号を育成した。この品種はやぶきたの自然交雑による実生から選抜した。樹勢は強く, 株張りの良好な多収性品種である。荒茶品質は色沢, 香気が優れている。この品種は煎茶及びかぶせ茶用として適している。

キーワード: チャ; 晩生種; 多収性; 煎茶; かぶせ茶

## 緒 言

三重県は茶栽培にとって好適な気候風土により, 古くから産地として発展してきた。

チャの品種は実生繁殖による在来種から, しだいに栄養繁殖による品種に替わってきた。平成6年には茶栽培面積の63.4%が栄養系の品種に替わってきている。

しかしその内93.3%までがやぶきたで占められている。在来種からやぶきたへ変わったことで摘採期の早期化と作業の集中化が高まった。摘採の早期化は当然のことに晩霜害の危険が高まった。従って防霜施設が必要条件になってきた。また単一品種に集中化したために, 摘採や製造時期の集中が激化している。そしてやぶきたは比較的病虫害に弱いことから多発が危惧される。一方やぶきたが偏重されることは消費者の立場からは味が均一化して嗜好の多様化に逆行していることになる。以前から関係者の間ではこれらの弊害の指摘も多くされてきたが, 現状では市場性が高いことや栽培が容易なことなどから, 生産者はやぶきた一辺倒になってきた。

しかし茶業経営を拡大する上で栽培面積を拡大し機械化を進めていくとき, 一番に問題になることは作業が集中することである。そこで, 早晩の品種組合せにより作期の拡大を図ること, 特に三重県の茶産地の比較的冷涼な気象条件を考慮すると, 晩生品種への作期拡大は重要である。

このたびやぶきたの実生の中から萌芽の遅い系統を繰

り返し選抜し, 系統番号G<sub>1</sub>N206を育成した。県内における品種特性と地域特性を解明し, 三重県の特産茶種の煎茶, かぶせ茶に適した晩生系統をみえ緑萌1号として農林品種登録したので報告する。

## 来歴および育成経過

みえ緑萌1号は三重県農業試験場茶業分場(亀山市亀田町)において, 1960年にやぶきたの自然交雑による実生を採取, 播種し, 約400個の個体を養成した。

途中8年間選抜を中断したが1971年から再開し, 繰り返し晩生系統を選抜して, 系統番号G<sub>1</sub>N206とした。1974年から1992年まで系統比較試験を行なった。また系統の地域適応性検定試験は煎茶では1980年から南勢茶試験地(多気郡大台町)で, かぶせ茶では1983年から四日市市水沢町でそれぞれ実施した。(表1)

## 特性の概要

### (1) 形態特性<sup>1)</sup>

茶種苗特性分類調査報告書によって分類すると, 樹姿は中間型で樹勢は旺盛で株張りも大きい。(表2)

成葉の形は長だ円で大きさ及び厚さはやぶきたと比べてやや小さく, またやや薄い。色は緑で, 光沢はやぶきたと比べてやや少なく, 中程度である。(表3)

新葉の形は長だ円で大きさはやや小, 厚さはやや薄, 色は濃緑, 光沢はやや少である。(表4)

一番茶の茶芽はやぶきたより大きく、芽数は中、芽長は長で開葉数はやや多である。総じて芽数型の傾向が強い。（表5）

(2) 生育特性

幼木期の生育はやぶきたに比べて旺盛で、特に株張りが良い。（表6）

枝条の生育は節間長がやや短く、成葉の着葉角度はや

や鈍角である。さし木の発根性は良好である。（表7）

(3) 生態的特性

亀山と大台では煎茶について、四日市では5年生から直掛け被覆によるかぶせ茶として調査した。

萌芽期及び摘採期いずれの試験圃も防霜施設の設置がなかったため、年によっては晩霜の影響があった。しかし総じて萌芽期に地域差はあるものの、やぶきたに比べ

表1 育成経過と担当者

期 間	育 種 内 容	担 当 者
1960～1962年	農業試験場茶業分場（旧茶業センター）の <u>やぶきた</u> 圃場から実生を採取、播種、個体育成	吉田元丈
1963～1970	選抜休止	
1971～1979	個体選抜及び系統比較試験	吉田元丈、橋 尚明
1980～1993	大台町、四日市市で地域適応性検定試験	池田敏久、大谷一哉

表2 樹体の特性

品 種 名	樹 姿	樹 勢	株 張 り	葉層の厚さ
みえ緑萌1号	中	強	やや大	中
やぶきた	やや直	やや強	やや小	中

表3 成葉の形質

品 種 名	形	大 小	厚 さ	色	光 沢	葉面のしわ	葉縁の波	内折度	反転度
みえ緑萌1号	長だ円	中	やや薄	緑	中	やや少	多	中	中
やぶきた	長だ円	やや大	中	緑	やや多	中	多	中	中

表4 新葉の形質（一番茶）

品 種 名	形	大 小	厚 さ	色	光 沢	葉 質
みえ緑萌1号	長だ円	やや小	やや薄	濃緑	やや少	中
やぶきた	長だ円	中	中	緑	中	中

表5 摘採期の茶芽（一番茶）

品 種 名	そ ろ い	芽 数	摘芽長	摘芽茎の太さ	摘芽本葉の開葉数
みえ緑萌1号	中	115本	7.9cm	中	4.1枚
やぶきた	やや揃	125	6.5	中	3.8

注：具体的数値は1970年3月定植の1976～1982年の平均芽数は30cm×30cmの枠内の芽数

表6 幼木期の生育特性

品 種 名	樹 高			株 張 り		
	2年次	3年次	4年次	2年次	3年次	4年次
みえ緑萌1号	88cm	69	81	59cm	72	109
やぶきた	82	80	73	38	53	77

注：1980年3月定植。各年11月調査

表7 一般生育特性

品 種 名	分枝数	節間長	太 さ	着葉角度	さし木の発根性
みえ緑萌1号	中	やや短	中	やや鈍	良
やぶきた	中	中	中	中	良

表8 萌芽期及び摘採期 (亀山)

品 種 名		1976年	1977	1978	1979	1980	1981	1982	平均
みえ緑萌1号	萌芽期	4月23日	4.21	4.19	4.14	4.10	4.15	4.21	4月18日
	摘採期	—	5.19	5.20	5.21	5.19	5.14	5.14	5月18日
やぶきた	萌芽期	4.19	4.14	4.15	4.10	4.5	4.11	4.17	4月13日
	摘採期	—	5.17	5.16	5.15	5.12	5.8	5.10	5月13日

注：1970年3月定植

表9 萌芽期及び摘採期 (大台)

品 種 名		1985年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	平均
みえ緑萌1号	萌芽期	4月14日	4.16	4.16	4.15	4.15	4.14	4.12	4.13	4月14日
	摘採期	5.17	5.16	5.21	5.16	5.16	5.11	—	5.12	5月16日
やぶきた	萌芽期	4.14	4.12	4.13	4.13	4.10	4.8	4.9	4.6	4月11日
	摘採期	5.17	5.14	5.19	5.16	5.14	5.8	—	5.6	5月13日

注：1980年3月定植

表10 萌芽期及び摘採期 (四日市)

品 種 名		1987年	1988	1989	1990	1991	1992	平均
みえ緑萌1号	萌芽期	4月21日	4.19	4.14	4.12	4.17	4.16	4月17日
	摘採期	5.26	5.24	—	5.21	5.18	5.19	5月22日
やぶきた	萌芽期	4.21	4.11	4.7	4.7	4.10	4.9	4月11日
	摘採期	5.26	5.16	—	5.14	5.13	5.12	5月16日

注：1983年3月定植

表11 耐寒性及び耐病性

品 種 名	赤枯れ	裂傷型凍害	たんそ病	輪斑病	もち病
みえ緑萌1号	強	やや強	中	やや強	中
やぶきた	強	やや強	弱	弱	中

て亀山では4～5日、大台では3～4日、四日市では5～6日程度遅い。

摘採期についてもやぶきたに比べて萌芽期とはほぼ同様な差で、亀山では4～5日、大台では2日、四日市では5～6日遅い晩生種である。(表8～10)

耐寒性についてはやぶきたと同程度に強い方である。

耐病性はやぶきたと比べて、たんそ病、輪斑病共に強い。(表11)

## (4) 収量性

幼木時期の生葉収量は株張りが良好なため、やぶきたに比べて収量性が高い。(表12)

成木時期の生葉収量は平均して、やぶきたに比べて亀山の煎茶では、一番茶で約18%、二番茶で21%の多収

であった。また四日市のかぶせ茶では一番茶で約38%、二番茶で42%それぞれ多収であった。しかし大台では逆に一番茶、二番茶共にやぶきたより減収であった。大台では亀山や四日市と生育特性がやや異なっているため、再度幼木から生育及び収量調査を行なっている。(表13～15)

表12 幼木の生葉収量 (亀山) (kg/10a)

品 種 名		1984年	1985	1986
みえ緑萌1号	一番茶	117	315	216
	二番茶	110	340	—
やぶきた	一番茶	83	172	142
	二番茶	111	253	—

注：1980年3月定植

表13 煎茶の成木生葉収量 (亀山)

(kg/10a)

品 種 名		1977年	1978	1979	1980	1981	1982
みえ緑萌1号	一番茶	129	251	336	350	—	467
	二番茶	165	205	—	263	—	489
やぶきた	一番茶	132	219	305	275	—	333
	二番茶	149	171	—	242	—	333

注：1970年3月定植

表14 煎茶の成木生葉収量（大台町）

(kg/10a)

品 種 名		1985年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
みえ緑萌1号	一番茶	333	289	399	255	327	348	427	386
	二番茶	336	290	387	308	303	368	296	—
やぶきた	一番茶	499	289	396	375	451	483	471	567
	二番茶	383	272	397	402	373	471	491	—

注：1980年3月定植

表15 かぶせ茶の成木生葉収量（四日市）

(kg/10a)

品 種 名		1987年	1988	1989	1990	1991	1992
みえ緑萌1号	一番茶	249	376	—	521	406	604
	二番茶	180	267	—	476	683	573
やぶきた	一番茶	118	—	—	333	570	524
	二番茶	199	242	—	242	391	413

注：1983年3月定植。被覆は直掛けで10日程度。1989年は凍霜害による摘採不能

表16 煎茶品質の特性 一番茶（亀山）

品 種 名	年度	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
みえ緑萌1号	1977	17.5	17.0	18.5	19.5	18.0	90.5
	1978	17.0	17.5	18.5	17.0	19.0	89.0
	1979	18.5	16.5	18.0	18.5	18.0	89.5
	1980	20	20	19.5	19.5	20	99.0
	1981	20	19.5	20	19.5	19.5	98.5
	年平均	18.6	18.1	18.9	18.8	18.9	93.3
やぶきた	1977	16.5	16.0	18.0	20	18.5	89.0
	1978	17.5	16.5	17.0	19.0	17.0	87.0
	1979	18.0	16.5	20	18.5	19.0	92.0
	1980	19.5	18.5	18.5	17.5	18.5	92.5
	1981	20	19.0	19.5	17.5	19.0	95.0
	年平均	18.3	17.3	18.6	18.5	18.4	91.1

注：各審査項目20点満点、合計100点満点

表17 煎茶品質の特性 二番茶（亀山）

品 種 名	年度	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
みえ緑萌1号	1977	15.5	15.5	17.0	15.0	13.0	76.0
	1978	15.0	15.0	16.0	17.0	16.5	79.5
	1979	—	—	—	—	—	—
	1980	13.5	13.0	14.0	14.5	13.0	68.0
	1981	16.0	15.0	15.0	15.0	16.0	77.0
	平均	15.0	14.6	15.5	15.4	14.6	75.1
やぶきた	1977	15.0	14.5	16.0	15.0	14.0	74.5
	1978	13.5	13.0	15.0	15.5	16.0	73.0
	1979	—	—	—	—	—	—
	1980	13.0	12.5	13.5	11.0	11.0	61.0
	1981	13.0	14.0	13.5	14.0	13.0	67.5
	年平均	13.6	13.5	14.5	13.9	13.5	69.0

## (5) 荒茶品質と化学成分

官能荒茶審査において、煎茶では外観が良く、なかでも、やぶきたに比べて色沢が優れ、鮮緑である。香気はやぶきたより温和な芳香を有する。

亀山では総じてみえ緑萌1号が優れ、特に一番茶では色沢がよかった。また二番茶では全ての項目で優れた。

大台ではやぶきたに比べて一番茶では形状、色沢が優れたものの、水色、滋味が劣った。二番茶では全項目でほぼ同等であった。

四日市のかぶせ茶ではやぶきたに比べて一番茶では色沢、香気、滋味が優れ、特に色沢は冴えた色を有した。

二番茶ではほぼ同等であった。(表16～21)

一番茶荒茶の化学成分はやぶきたに比べて、カフェイン、全カテキンをやや多く含むが全窒素、全アミノ酸はほぼ同等であった。(表22)

## 栽培・加工上の注意点

一番茶芽の硬化進度について全窒素含量から推測すると、みえ緑萌1号はやぶきたよりやや緩慢である。(図1)しかし晩生種の摘採時期に当る5月下旬には気温が急激に上昇することがあるので、摘採遅れにならないように注意を払う必要がある。また加工時の蒸し度について、みえ緑萌1号は、蒸し度を高めてもやぶきたほど粒度が細くなることはない。(図2～3)

表18 煎茶品質の特性 一番茶(大台)

品 種 名	年度	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
みえ緑萌1号	1985	9	9	8	8	8	42
	1986	9	10	9	9	8	45
	1987	9	10	10	7	8	44
	1988	10	9.5	10	10	9	48.5
	1989	9	9	9	8	9	44
	年平均	9.2	9.5	9.2	8.4	8.4	44.7
やぶきた	1985	7	7	10	10	9	43
	1986	8	9	9	10	10	46
	1987	9	8	9	7	10	43
	1988	9.5	10	10	10	9.5	49
	1989	8	8	10	9	10	45
	年平均	8.3	8.4	9.6	9.2	9.7	45.2

注：各審査項目10点満点、合計50点満点

表19 煎茶品質の特性 二番茶(大台)

品 種 名	年度	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
みえ緑萌1号	1985	6	7	5	6	6	30
	1986	6	6	7	10	7	36
	1987	10	9	10	8	9	46
	1988	8	7.5	10	10	9	44.5
	1989	6	8	6	7	7	34
	年平均	7.2	7.5	7.6	8.2	7.6	38.1
やぶきた	1985	6	7	5	5	5	28
	1986	7	6	8	9	7	37
	1987	9	9	7	9	10	44
	1988	7	6.5	9.5	10	9	42
	1989	7	7	6	6	8	34
	年平均	7.2	7.1	7.1	7.8	7.8	37.0

表20 かぶせ茶品質の特性 一番茶（四日市）

品 種 名	年度	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
みえ緑明1号	1988	9	9.5	10	9.5	9.5	47.5
	1989	—	—	—	—	—	—
	1990	9.5	9.5	9	9	9.5	45.5
	1991	10	10	10	10	10	50
	1992	10	10	10	9	10	49
	年平均	9.6	9.8	9.8	9.4	9.8	48.0
やぶきた	1988	10	9	9	9	9	46
	1989	—	—	—	—	—	—
	1990	10	10	8	8	8.5	44.5
	1991	10	9	9	10	10	48
	1992	8	8	10	9	9	44
	年平均	9.5	9.0	9.0	9.0	9.1	45.6

注：各審査項目10点満点、合計50点満点

表21 かぶせ茶品質の特性 二番茶（四日市）

品 種 名	年度	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
みえ緑明1号	1988	9	10	9.5	9	10	47.5
	1989	—	—	—	—	—	—
	1990	9.5	9	9.5	9.5	10	47.5
	1991	9	9	8	10	10	46
	1992	10	10	10	10	10	50
	年平均	9.4	9.5	9.3	9.6	10.0	47.8
やぶきた	1988	10	8.5	10	10	9.5	48
	1989	—	—	—	—	—	—
	1990	10	10	9	9	9	47
	1991	10	10	10	9	9	48
	1992	9	8	10	9	10	46
	年平均	9.8	9.1	9.8	9.3	9.4	47.3

表22 化 学 成 分

品 種 名	全窒素	カフェイン	全アミノ酸	全カテキン
みえ緑明1号	5.52%	2.68%	3.54%	12.89%
やぶきた	5.36	2.27	3.55	12.02

注：1992年の一番茶荒茶

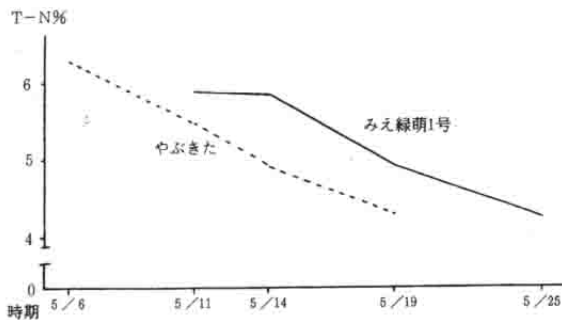


図1 みえ緑明1号とやぶきたの全窒素の推移

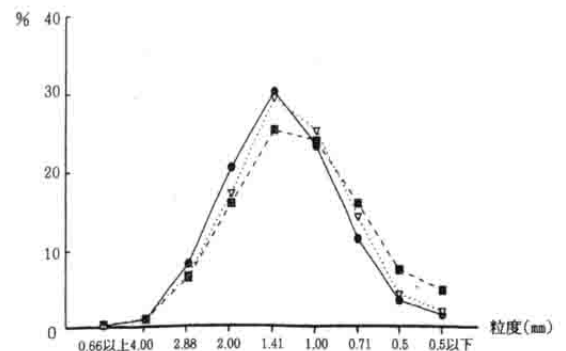


図2 みえ緑明1号の蒸し度と粒度

蒸し角度 ●●: 5.48 △△: 4.35° ■■: 1.96°

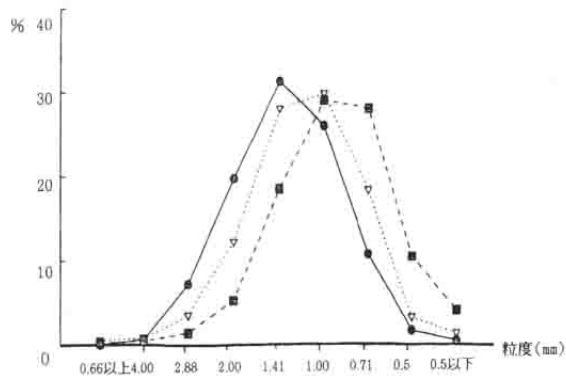


図3 やぶきたの蒸し度と粒度

蒸し角度 ○●: 5.48° △△: 4.35° ■□: 1.96°

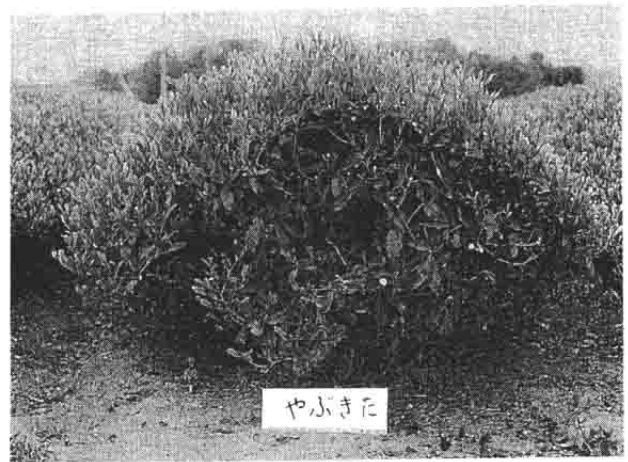


写真2 やぶきたの樹姿



写真1 みえ緑明の樹姿

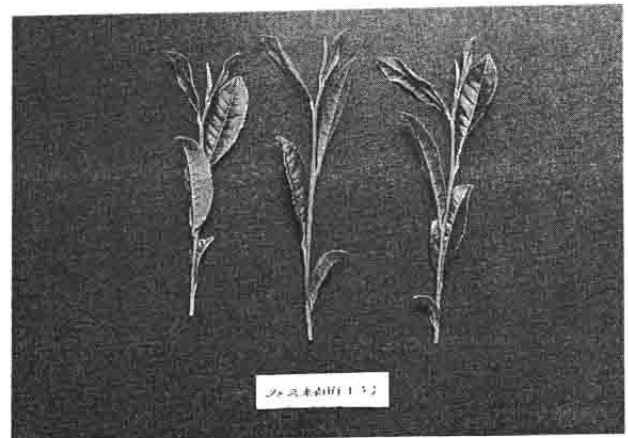


写真3 みえ緑明の一番茶芽

### 謝 辞

当品種育成にあたり、栽培試験及び官能審査にご協力いただいた茶業センター職員各位に、また四日市の現地試験圃場を提供していただいた池田明男氏に感謝致します。

### 引用文献

- 1) 農林水産技術情報協会編：茶種苗特性分類調査報告書，1981

## A Newly Registered Tea Variety 'Mie Ryokuhou No. 1'

Toshihisa IKEDA, Kazuya OHTANI,  
Naoaki TACHIBANA, Mototake YOSHIDA

### Abstract

For tea's likes and combination of cultivariety use, we bred 'Mie Ryokuhou No. 1' that the plucking time of the 1st crop is 5 days later than 'Yabukita'. It was selected in natural crossing of 'Yabukita' seedlings. This clone is good tree vigor of tree and great spread of plant. Quality of crude tea is excellent in color of made tea and aroma. This variety is suitable for Sencha and Kabusecha.

**Key word** tea ; late tea ; high-yielding ability ; Sencya ; Kabusecya